

【国語】 <小学校 第6学年>

1 結果のポイント

- 「聞く能力」については、相手が伝えようとしている内容を正しく聞く力をみる問題など、多くの問題の正答率が90%を上回っており、力が十分身に付いている。
- 「書く能力」については、意見と理由を区別し文章全体の組立てを考えて書く力をみる問題など、すべての問題の正答率が80%を上回っており、力が身に付いている。
- 「読む能力」については、登場人物の心情を想像しながら読む力、場面の移り変わりを考えながら読む力をみる問題など、多くの問題の正答率が70%を上回っている。他方、物語の展開に注意しながら読む力をみる問題の正答率は60%を下回っており、力が十分身に付いているとはいえない。
- 「言語についての知識・理解・技能」については、漢字を正しく読む力をみる問題の多くの正答率が90%を上回っており、力が十分身に付いている。また、漢字を正しく書く力をみる問題、漢字の意味を考えて熟語を作る力をみる問題などの正答率は70%程度である。他方、漢字を書く力をみる一部の問題の正答率が70%を下回っており、力が十分身に付いているとはいえない。

2 結果の分析

(1) 相手が伝えようとしている内容を、正しく聞く力をみる問題の例（「聞く能力」）

<問題> の二

ジェフさんが、自分の国で日本語の先生になりたいと考えているのはなぜですか。次のア～エの中から一つ選び、その記号をの中に書きましょう。

- ア 多くの人に日本語を通して日本の美しい風景を知ってほしいから。
- イ 多くの人に日本語を通して日本人の生活の様子を知ってほしいから。
- ウ 多くの人に日本語を通して日本の歴史や文化を知ってほしいから。
- エ 多くの人に日本語を通して日本人のすばらしさを知ってほしいから。

<結果> 正答率 98.2% (正答…ウ)

<分析>

この設問は、外国人に日本語についての思いや考えを聞き出すインタビューを聞き、話し手が話す内容を正確に聞き取っているかをみる問題である。類題として、の三があるが、いずれも高い正答率であった。話し手が伝えたいことを的確に聞き取る力が身に付いている。の四の話し手の思いや考えをつかみながら、目的や意図に応じて聞き方を工夫することを調査する問題も、正答率は86%と高かった。また、話を聞きながら話の内容のポイントをテスト用紙に主体的にメモする児童がみられた。3・4年生の「要点などをメモに取りながら聞く」指導が定着してきたと考えられる。

(2) お礼の気持ちが読み手に伝わるように表現を工夫して書く力をみる問題の例（「書く能力」）

<問題> の五

ひろしさんは、ジェフさんから日本語についていろいろと話を聞くことができました。そこで、お礼の手紙をジェフさんに書くことにしました。ひろしさんの気持ちになって、「インタビューにていねいに答えてくれたこと」に対するお礼の気持ちがジェフさんによく伝わるように、手紙の中心の部分を四行以上五行以内で書きましょう。

<結果> 正答率 81.2%

<分析>

この設問は、インタビューに協力してくれた人に対する感謝の気持ちが効果的に伝わるように、表現を工夫してお礼の手紙を書く力をみる問題である。無記入の児童はほとんどみられず、多くの児童が意欲的に取り組んだ。話し手がインタビューに答えた内容に対する感想や、インタビューを通して分かったことやうれしかったことを具体的に記述することができている。また、インタビューに協力してくれたことに対する感謝の気持ちが、限られた字数の中で端的に表現できて

いる手紙が多くみられた。相手や目的に応じて、内容や表現を工夫して書く力が付いていると考えられる。しかし、「ありがとう」という言葉を繰り返して使用したり、同じような感謝の気持ちを表す内容が繰り返されたりする手紙もみられた。今後、文章全体を見通して、事柄を整理して書く力の育成が必要である。

(3) 意見と理由を区別し、読み手によく分かるように、文章全体の組立てを考えて書く力をみる問題の例（「書く能力」）

<問題> ㉒

国語の時間に学習した「やまなし」の物語を、一年生に読み聞かせることにしました。読み聞かせの方法として、「紙しばい」と「げき」の意見が出ています。あなたはどちらがよいと考えますか。自分の意見を四行以上六行以内で分かりやすくまとめましょう。

なお、最初に「自分の考え」を述べ、そのあとに「自分で見たり、聞いたり、体験したりしたことをもとにした理由」を述べるという順序でまとめましょう。

<結果> 正答率 87.6%

<分析>

この設問は、1年生に物語の読み聞かせをする方法を2つの中から選択し、自分の立場とその根拠となる理由を明確に区別して書く力をみる問題である。正答率は、昨年度の同様の調査問題と比較して7%上がっており、意見と理由が明確に区別され、文章構成が考えられた意見文が多くみられた。理由も1年生の実態や物語の特徴を踏まえ、説得力のあるものが多かった。文章の組立てに気を付けて、筋道を立てて説得力のある文章を書く力が付いてきているといえる。無記入や字数不足の解答は、全体の7%程度みられた。また、「～だし、…」 「～だけど」という話し言葉が混在している意見文がみられた。今後、意見文の書き方の指導とともに、語感や言葉の使い方に対する感覚についての指導が必要であると考えられる。

(4) 物語の筋の展開にしたがって、書かれている内容を叙述に即して読む力をみる問題の例（「読む能力」）

<問題> ㉓の四

(2) _____ の「小包」と同じ意味で使われている言葉を文章中から四文字で探し、に書きましょう。

<結果> 正答率 53.0% (正答…おくり物)

<分析>

この設問は、物語の展開に沿って、書かれている内容を叙述に即して正確に読み進めていく力をみる問題である。全体的に「読む能力」に関する問題の正答率は低く、特にこの問題の正答率は53%と低かった。無解答はほとんどみられなかったが、誤答には物語の中に出てくるいくつかの「小包」の中身（マッチ箱、絵はがき等）の1つを取り上げているものが多くみられた。このことは、物語の展開に沿って物語全体を読み味わうことが苦手な児童が多いことを示している。文学的な文章の指導において、詳細な読解に偏らず、物語を作品全体から読み味わう指導をさらに充実させていく必要がある。

(5) 5年生までに習った漢字を正しく書く力をみる問題の例（「言語に関する知識・理解・技能」）

<問題> ㉔の(4)

次の文の _____ 部を漢字に直し、の中に書きましょう。

(4) 公園のさくらの花がさき始めました。

<結果> 正答率 92.1% (正答…桜)

<分析>

この設問は、5年生までに学習した漢字を正しく書く力をみる問題である。「桜」は、昨年度の調査と同様、90%以上の高い正答率であった。誤答には、漢字のつくりの誤りが多く、無回

答はほとんどみられなかった。しかし、漢字を読む力と比較すると、漢字を書く力をみる問題の正答率は全体的に低い。文章を書くときに、目的や相手を意識して、漢字や平仮名等を意図して使い分けていく指導と同時に、学習した漢字を日常生活の中で使う指導を一層行う必要がある。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

- ・「話すこと・聞くこと」においては、相手の意図をつかみながら聞く力を育成する指導の一層の充実を図る必要がある。そのためには、相手と目的を明確に意識させ、話し手が聞き手に伝えようとしていることを正確に聞き取るための、必然のある言語活動を工夫して位置付けていく必要がある。また、この際、自分の考えや思いが聞き手に伝わるように、話の組立てを工夫しながら話す指導との関連をもたせることも十分配慮したい。
- ・「書くこと」においては、全体を見通して文章を書く力を育成する指導の一層の充実を図る。5年生でも行っている、目的や意図、効果などを考えながら、材料を収集したり、選択、整理したりする指導を継続する必要がある。また、言語事項の「文及び文章の構成に関する事項」における「文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること」の指導と合わせ、目的や意図に応じて効果的な構成を用いたり、工夫をしたりしていく指導を大切にしたい。
- ・「読むこと」においては、文章を読んで主題を考えたり要旨をとらえたりすることや、叙述に即して想像を広げたり、自分の意見をもつ力を育成する指導の一層の充実を図る必要がある。そのためには、文章構成や語句の使い方、文末などの表現に目を向けていく必要がある。また、「書くこと」の学習と関連させ、文章の要約をしたり要旨を書きまとめたりする学習が繰り返し行われる指導計画となるよう配慮したい。

(2) 指導方法の工夫改善

- ・「話すこと・聞くこと」においては、前学年までに学習してきた、具体物を示しながら話したり、資料を基にしながら説明や報告をしたりする言語活動を、児童や学校等の実態に応じて創意工夫して多様に取り入れていくことが大切である。この際、児童が「話したい、聞きたい」と感じる興味・関心の高い題材や、「話さなければならない、聞かななければならない」と感じる必然のある学習活動となるよう、十分配慮する必要がある。また、話し手がどのように組立てを工夫しているのか、どのような言葉遣いに配慮しているのか、そこから伝わってくる話し手の考えや意図は何かなど、児童自身が聞くことに関する観点を自覚できるようにすることも重要である。
- ・「書くこと」においては、児童の目的や意図を生かしながら文字言語を通して書く力を育成することを大切にしていきたい。前学年までに身に付けた文字言語を通しての効果的な書き方を、児童が主体的に活用し、より確かな力にしていくために、生活の中で実際に書くことが予想される言語活動（「礼状」、「依頼状」、「報告文」等）を創意工夫していくように配慮することが大切である。
- ・「読むこと」においては、叙述に即して思考したり想像したりできるように指導することはもちろんであるが、文章の詳細な読解に偏りすぎないように、すべての「読むこと」に関する指導事項が指導できるよう十分配慮したい。そのためには、要約をしたり要旨を書きまとめたりする活動を積極的に取り入れる必要がある。この場合、形式的な授業になることがないように、児童にとって必然のある学習にしていく指導方法の工夫を図りたい。また、音読や視写を、目的に応じて積極的に活用することも大切である。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・教師自身が、「話し方」「聞き方」「話し合い方」「書き方」の範を示し、豊かな言語環境を作り上げることが重要である。
- ・自分の思いや考えを、文字や音声を通して安心して表現することができる雰囲気を作り上げるために、互いの立場や考えを尊重していく指導を日常生活の中で徹底する。
- ・国語の時間には常に机上に国語辞典を置き、必要に応じて児童が主体的に国語辞典を活用していく習慣を身に付けるようにするとともに、学校図書館の活用を積極的に進める。
- ・委員会活動や係の活動などで児童が作成した資料や掲示物、連絡の場を有効な指導の場としてとらえ、漢字や言葉遣い、表現の仕方が目的や場に応じたものかどうかを視点にして見届け、価値付けるなどの指導を継続する。